

- 野菜作を規模拡大するためには、収穫作業の能率アップと労力軽減が不可欠である。
- 能率アップおよび労力軽減・人件費抑制の面で、大型機械による収穫が注目されている。

<収穫機導入目的>

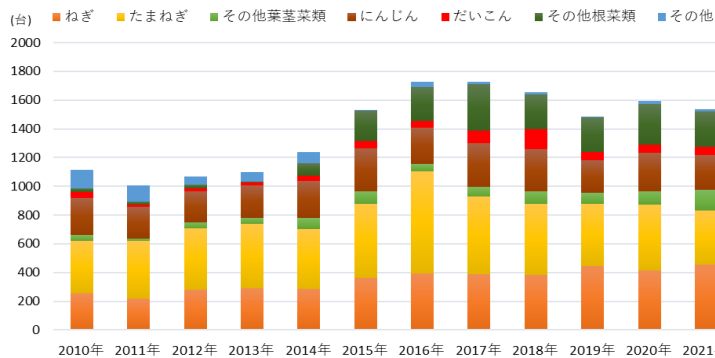
○経営規模拡大・効率化

農業総産出額の過去5ヵ年(2017~2021年)平均では、野菜が2.3兆円で、農業総産出額の3割に迫る勢いになっており、米の産出額(1.4兆円)を大きく上回る。

ライフスタイルの変化も加わり、外食・中食需要は増加を続け、加工・業務用野菜の需要拡大を後押しする。

しかし、経営面積拡大は、作業可能期間や労働力確保との兼ね合いで限界がある。収穫機の導入は、その限界を引き上げることができる一手段として導入が進んでいる。

野菜収穫機出荷台数



資料：日本農業機械工業会

<収穫機導入メリット>

○重労働からの開放

収穫作業は人力に依存している品目が多く、特に葉菜類など、収穫物の取扱に手間がかかるため作業者の負担が大きい。この**重労働から開放されるだけでなく、作業時間を短縮できる。**

○労働費削減

基幹的農業従事者の平均年齢は67.8歳(令和2年農林業センサス)で、依然として高い水準にある。野菜作における収穫作業は人手が必要であり、高齢化や人手不足の影響が直撃している。機械化はその人手不足を解消するとともに、品目により異なるが、**現行作業と比較し、作業要員の削減が可能である。**

大根収穫機
HD1400



キャベツ収穫機
HC1400



ねぎ収穫機
HGX100



いも類収穫機
GRA650



たまねぎ収穫機
VHA730H

